

防潮堤と自然考える

小泉地区で勉強会

県の堤防整備が計画されている本吉町小泉地区の住民が23日、専門家とともに小泉海岸周辺の様子を見学し、防潮堤と自然環境について考えた。

小泉地区の明日を考える会（及川茂昭会長）が、堤防建設につ

いて考える機会をいとと意見を出しながら、企画。NPO法人森は海の恋人の畠山信副理事長と、土木と河川環境について研究している首都大学東京の横山勝英教授をアドバイザーに小泉海岸を見て回った。

探った。
及川会長は「素晴らしい自然が残っており、今後さらに機会を重ねて住民と話し合っていきたい」と話していた。

畠山さんは、唐桑町舞根地区に出来上がった大きな干潟を例にしながら「小泉海岸の広大な湿地は三陸地方有数」と前置き。天然のイワガキやアサリ、シジミなどが集まっていることを示しながら、「自然環境の保全だけでなく、漁業資源や観光資源としても適したフィールド」と強調した。

計画されている14・7呎の高さを示すために設けられたポールを見学し、湿地帯を観察した参加者たちも、「自然公園のような形に残せないか」「海を後世に残したい」など



小泉海岸で見学会

2012年9月26日付「三陸新報」1面